



子ども健康を守る

ストップたばこ

<中>

喫煙によって女性は卵巣機能低下。男性は精子の数が減少し、性欲が落ちるなど、産婦人科で禁煙支援に取組む活動の意義を強調す

未来のメンバーは、妊婦から女性だけでなく、夫や家族にもチームで寄り添う。禁煙の口寂しさからアメやガムを間食し、体重増加に悩む人には、管理栄養士の西澤陽子さん(三)が栄養バランスを考慮した食事のとり方や間食についてアドバイス。イラストや漫画を使ってたばこの害を訴えるパンフレットは、看護師の小川ルリさん(三)の手作りだ。

「赤ちゃんの健康にいい話、ちょっと聞いて帰りませんか？」

鳥取市覚寺の「タグチーVフレディースクリニック」の助産師、川口映子さん(四)は出産して退院を控えた女性の病室をのぞき、喫煙者の夫が部屋にいるのを確認すると、優しく笑顔で声をかけた。「この機会にたばこから卒業してみませんか？」

同院では、日本禁煙学会認定の指導助産師で、禁煙支援士の資格も持つ川口さんを中心に、看護師、臨床検査技師、管理栄養士の五人で卒煙支援

産婦人科医院

グループ「未来」を結成。メンバーの専門性を生かした活動で、たばこの有害性を訴え、「たばこからの卒業(卒煙)」を支援している。

二〇〇五年七月、鳥取県の禁煙施設認定を受けたのをきっかけに発足。県内の産婦人科医院では先進的な取り組みだ。

最先端の不妊治療に取り組む産婦人科医の田口俊章院長(五五)は「胎児の発育や器官形成に害を及ぼすと、妊娠をきつかけに禁煙する女性が多いが、たばこは不妊原因になると指摘。



赤ちゃんをたばこの害から守るには家族や社会全体の協力が不可欠だ。鳥取市のタグチーVフレディースクリニック

専門家5人が親身に助言

グループ名の由来は「たばこから卒業すると、新しい未来が来る」。身体面だけでなく、精神的にも生まれ変わることを意味する。

「たばこをやめたら何事にも自信がわき、積極的になれたとか、肌の乾燥や荒れが気にならなくなったなど、禁煙の喜びの声が私たちの励みにもなる」とメンバー。

誰でも必ず卒煙できると信じている。「失敗を恐れずあきらめないで」。彼女たちが、そっと背中を押してくれ

妊婦や家族の“卒煙”支援